

# 中央植物園だより



キクザキイチゲ *Anemone pseudo-altaica* H. Hara  
キンボウゲ科のアネモネの仲間で、雪解け後、落葉樹の葉が茂る前に可憐な花を咲かせる。花びらのように見えるのはがく片。色は白から淡紫色まで変異があるが、写真のような鮮やかな青紫色のものは富山県内では少ない。 撮影：扇谷昭進さん(平成14年度私の植物写真展応募作品)

## ドリラスホールが完成しました

- 活動報告.....写真展「植物の造形美」ほか
- 話題の植物.....リュウキュウベンケイ  
なんじゃもんじゃの木
- 研究紹介.....中国産ペゴニアの染色体
- 雲南省の植物と文化...その4 高山植物の宝庫 香格里拉(上)



ドリラス

# ドリアスホールが完成しました

平成5年秋に開園した富山県中央植物園は、今年で10周年を迎えます。県民の皆さんに植物に関する知識を広め、興味をもってもらうために、これまでいろいろなイベントや活動を行ってきました。このほど、新たに園内で休憩や学習の場として使用する多目的小ホール「ドリアスホール」が完成しましたので、皆さんにお知らせします。



園内に新たに完成した多目的小ホール「ドリアスホール」



150年生の県産の杉材を利用した力強い梁。釘や金具を使わない伝統的な木組み技術を観察できる

## 名称

ホールの愛称は、植物園の愛称「ドリアス」にちなんで名づけられました。ドリアスはギリシア神話に出てくる森の精で、ドリアスホールには「森の精が宿る場所」という意味が込められています。

## 施工

ドリアスホールは「木材産業経営革新公共施設等整備事業」により建築されました。施工は富山国際職藝学院に依頼され、建築職藝学科の建築大工コース、家具大工コース、建具大工コースの大工職藝人教育の教材として提供されました。同学科の2年生約40人が、実習を兼ねて作業に参加しました。

平成14年12月10日には上棟式が行われました。上棟式は柱や梁が組みあがり、棟木を載せる時に工事の無事を祈る儀式です。職藝学院の教職員と学生らの手で行われ、県や植物園の関係者約100人が出席しました。東西に伸ばした紅白の綱を引き棟木を上げる曳綱の儀や、木槌

で棟木を建物に納める槌打の儀などが古式にのっとり行われました。

## 構造

ドリアスホールは木造平屋建て、軸組伝統構法で建築されました。使用木材は、富山県の風雪に耐え、気候風土に馴染んだ県産の杉材を使用しています。外来材に比べ、その地域特有の気候条件の中で生育してきた郷土の材は腐りにくく、長持ちするといわれています。伝統木造構法による、釘や金具に頼らない伝統的な木組み技術についても、利用の際に観察してみてください。ホール内では下から天井が見え、150年生の太い杉の梁が頭上にあってなかなかの壮観です。



12月10日には、古式にのっとり上棟式が行われた

## ドリアスホールのご利用

ホール内には、休養・ベビー室とオリエンテーションルームがあります。休養・ベビー室では、園内で体調が悪くなったりした方が横になって休むことができるほか、小さなお子さんへの授乳室を兼ねた場所となっています。オリエンテーションルームの収容人数は大人約70名で、団体入園客に植物園の概要を説明したり、植物に関する講座を開いたりする場所として利用する計画です。

### オリエンテーションルームについて

#### 食事や学習の場に

昼食や休憩にご利用ください。参考図書のコーナーもあります。ホール内で自由にご覧ください。

#### 利用予約ができます

入園窓口のほか、Fax、E-mail、ハガキでも利用予約ができます。(電話での予約は受け付けていませんのでご了承ください)

#### 空いているときはご自由に

予約のないときは、いつでも自由にご利用できます。

#### 講座が聴けます(要申込)

植物園の効果的なご利用のため、職員による特別講義を用意しました。平成15年度は次の4つのテーマです。

中国雲南省の珍しい植物

ランの花の秘密

富山の植物 - 海岸から高山まで

熱帯の有用植物

講座の聴講申込については、電話でご相談ください。

#### ご利用に関するお問合せ

〒939-2713

富山県婦負郡婦中町上轡田42

富山県中央植物園

電話 076-466-4187

FAX 076-465-5923

E-mail shokubutsuen01@pref.toyama.jp



ドリアスホールの入口は、サンライトホールから高山植物室への通路の左側



休養・ベビー室がある



大人約70人を収容できるオリエンテーションルーム。木材の感触や木目の美しさを楽しむ

## 写真展 植物の造形美

ふだん何気なく眺めている植物も、花の細部や葉脈などに注目すると、思わぬ美しさに気づくことがあります。1月17日（金）～2月5日（水）にサンライトホールで開催された写真展「植物の造形美」では、植物体のさまざまな部分の美しさに焦点を当てた写真90点あまりが展示されました。材の切片や花粉などの顕微鏡写真も展示され、訪れた人たちは肉眼ではわからない構造が示す意外な美しさに驚いていました。一部の写真は、福井県立恐

竜博物館、富山市科学文化センター、富山県[立山博物館]のご協力を得て展示しました。



植物の形の美しさに焦点を当てた写真を展示

## 私の植物画展

今年で8回目を迎えた「私の植物画展」が、2月7日（金）～26日（水）にサンライトホールで開催されました。北海道、東京都、神奈川県など県外の方を含む77名の方から、117点の出品がありました。植物画は植物学的な正確さを持つことが最大の特徴で、葉や花びらの形やつき方、色などが正しく描かれています。身近な園芸植物からハマナスやミヤマエンレイソウなどの野生植物まで、描かれた題

材はさまざまですが、生き生きとした植物の姿を見事にとらえた作品が多くみられました。



県外からの応募も増えてきた「私の植物画展」

## 平成14年度研究活動展 植物園を支える研究活動(7)

富山県中央植物園ではそれぞれの職員が、植物の分類、生態、形態、種の特徴などさまざまな面から調査研究を行っています。その成果を発表する研究活動展が、2月28日（金）～3月26日（水）にサンライトホールで開かれました。中国雲南省昆明植物研究所との共同研究についてもあわせて紹介されました。また、3月16日（日）には同じ内容による研究発表会が研修室で開催されました。

チイガシ林の種組成と立地環境」山下寿之、「ウワバミソウは雌雄同株である」兼本 正、「アオキ類の発芽」志内利明、「チヨウキンレンの分枝について」大宮 徹、「ミクラザサの葉の表皮構造」高橋一臣、「3倍体センノウの微細繁殖」神戸敏成、日中共同研究報告「雲南省にペゴニアを求めて」中田政司



平成14年度の研究成果を紹介

発表テーマ：「富山県で新たに生育が確認された植物(6)」大原隆明、「富山県で記録されたきのこ(7)」橋屋 誠、「立山室堂平におけるライチョウの営巣地の植生」吉田めぐみ、「ハナガガシ林とイ

## リュウキュウベンケイ

*Kalanchoe integra* (Medik.) O. Kuntze

日本では琉球列島の一部に自生していたカラコエ属の一種ですが、野生では絶滅してしまった貴重な植物で、今では「幻の植物」のひとつです。中央植物園では5年ほど前に栽培されていた株を譲り受け、系統保存を行っています。冬に黄金色の美しい花が咲き、観賞価値も高い植物です。

(主任研究員 神戸敏成)



熱帯雨林植物室に展示されたリュウキュウベンケイ。  
野生では日本から絶滅した「幻の植物」

## なんじゃもんじゃの木 (ヒトツバタゴ)

*Chionanthus retusus* Lindl. et Paxton

日本各地で、正式な植物名がわからなかった植物を「なんじゃもんじゃ」という俗称で呼び、その正体は様々な植物を指しています。モクセイ科のヒトツバタゴもその一つです。日本では長崎、愛知、岐阜、長野の各県のやや湿った場所に自生していますが、その数は少ないといわれ、絶滅危急種に指定されています。またこれらの地方では、神社の境内に植栽されているところもあります。属名の *Chionanthus* は「雪の花」という意味のギリシャ語に由来し、植物園では5月中旬に樹冠一面に雪がかぶったように多数の白色の花をつけます。

同じくモクセイ科のライラック（和名ムラサキハシドイ）もこの頃から開花します。

(主任研究員 山下寿之)



「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれるヒトツバタゴ。5月中旬頃、枝いっぱい雪のような白い花をつける

## 中国産ベゴニアの染色体

- 平成14年度日中共同研究の報告 -

副主幹研究員・企画情報課長 中田政司

平成13年度から開始された中国雲南省昆明植物研究所との共同研究では、最初の2年間の研究材料としてベゴニアが取り上げられました。花壇や温室、観葉植物として馴染み深いベゴニアは、シュウカイドウ科シュウカイドウ属の植物の別名(属名)で、全世界に1400種が、主に熱帯、亜熱帯に分布しています。日本では琉球列島の南に2種が分布するだけですが、中国には約130種類があって、特に雲南省はその分布の中心になっています。

共同研究のパートナーの昆明植物園園長管開雲教授はこのベゴニアを研究しており、多数の中国産ベゴニア属野生種を収集栽培しています。

我々は、雲南省の自生地でベゴニアを調査・採集するとともに、形態や染色体を観察し、貴重な野生種の保全のため組織培養技術を使った増殖を試みています。

植物の染色体を調べることは、その種の遺伝的な性質や他種との類縁関係を知る重要な手がかりになります。ところが、ベゴニアの染色体は大変観察し難く、DNAを化学反応で染色し、位相差顕微鏡(物質の屈折率の違いを明暗の差として可視化する)で観察するという複雑な技法がこれまで用いられたりしました。最近になって長時間解離染色する方法が用いられ、台湾産のベゴニアが詳しく観察されています(Oginuma & Peng 2002)。我々も、選別した染色色素で長時間染色する方法を用い、細胞質と染色体のコントラストを上げることに成功し、観察ができるようになりました。

図1は中国固有のベゴニアの一種 圓翅秋海棠 *Begonia laminariae* Irmsch. (ベゴニア・ラミナリアエ)です。平成13年の夏、神戸主任研究員が昆明植物研究所のスタッフと一緒に野外

調査で採集し、昆明植物園で栽培されていたものです。普通の方法だと図2左のような像しか得られませんが、ベゴニア用の方法だと右のような像が得られます。この種は染色体数が $2n=22$ でした。

このようにして、野外調査で採集された25個体全てについて、染色体数を算定することができました。また、管園長のベゴニアコレクションから25個体、20種類の染色体を観察しました。これらの多くは、今回初めて染色体数が算定されたものです。

結果の一部は富山県中央植物園研究報告第8号に掲載される予定です。



図1. 圓翅秋海棠(ベゴニア・ラミナリアエ)

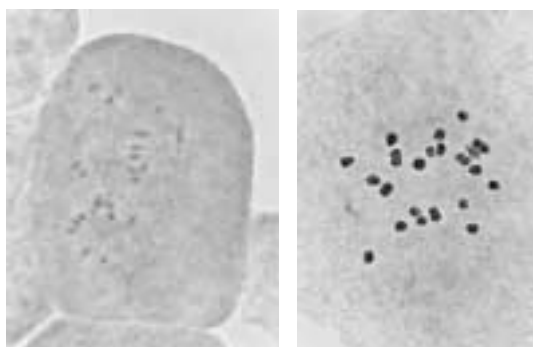


図2. 圓翅秋海棠の、従来の染色方法による染色体像(左)と、ベゴニア用の染色方法による像(右)( $2n=22$ )。倍率は1350×

## その4 高山植物の宝庫 シャングリラ 香格里拉(上)

主任研究員 神戸敏成

今回は平成13年7月下旬に野外調査に出かけた雲南省北西部の中甸を紹介します。中甸は前回紹介した麗江よりさらに北西の迪慶藏族自治州(2002年に香格里拉自治州に改名)の標高3200mの高地にある街です。少数民族のチベット族が暮らし、最近ではマツタケの産地として知られるようになり、たくさんのマツタケが日本へ輸出されています。

昆明からはおよそ700km離れているため、往復には飛行機を使い、現地では車をチャーターして調査を行いました。今回は富山県中央植物園で1年間一緒に仕事をした尹さんと一緒にです。

早朝の飛行機で中甸に到着した私たちはホテルにチェックインして朝食に出かけました。そこで私はチベット族のバター茶に初めて出会いました。その店ではおばあちゃんが今では珍しくなってしまった



写真1. バター茶を作るチベット族の人

伝統的な方法でバター茶を作ってくれました(写真1)。お茶にミルク、バター、塩を加えて作るバター茶の味と匂いにはさすがの私も戸惑いました。その日はデルフィニウムの野生種など(写真2)、



写真2. デルフィニウムの野生種

たくさんの高山植物の自生地を調査することができました。

翌日は属都海という湖で調査を行いました(写真3)。車で30分も走ると、窓からまるでピンクの絨毯のような光景が目に入り込んできました(写真4)。車を降りて近づくとプリムラ(サクラソウ属)とペディキュラリス(シオガマ属)の花でいっぱいでした。この日はクレマチスの野生種など初めて見る植物にたくさん出会い、感動の1日でした(写真5)。



写真3. 美しい属都海



写真4. プリムラとペディキュラリスのピンクの絨毯



写真5. サクラソウ属の野生種(プリムラ・シッキメンシス)

## これからが見ごろの植物



カンパヌラ・フラギリス  
5月 高山植物室



クレマチス  
5～6月 クレマチス園



ホウノキ  
5月 ブナ・ミズナラの森

## お知らせ

### イベント案内

無料開園  
ソメイヨシノと夜桜観賞  
日 時：4月10日(木)・11日(金)9:00～21:00  
(入園は20:30まで)

サンライトホール展示 (入園料が必要)  
特別展 野生ラン展 5月3日(土)～5月5日(月)  
企画展 私の植物写真展 6月27日(金)～7月23日(水)

観察会、講座・講習会  
講演会 シンビジウムとその仲間  
日 時：5月4日(日) 13:00～16:00  
場 所：研修室  
講 師：青山幹男(蘭ミュージアム高森副園長)  
参加費：無料  
県民カレッジ連携講座 第20回植物画講習会  
日 時：5月10日(土)・11日(日)10:00～16:00  
場 所：研修室  
講 師：豊田路子・岡田宗男(フェアリーリング会会員)  
参加費：約500円(画材費)  
定 員：50名 **要申込**

植物写真教室 やさしい花の撮り方  
日 時：6月1日(日) 13:00～16:00  
場 所：研修室、園内  
講 師：前佛 勇(富山県写真家協会顧問)  
参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要  
定 員：50名 **要申込**

月例行事  
日曜植物案内  
開催日：4月6日(日)、5月4日(日)、6月1日(日)  
時 間：11:00～12:00  
参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要  
植物園オリエンタリング  
開催日：4月20日(日)、5月18日(日)、6月15日(日)  
時 間：10:30～12:30  
参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要  
定 員：毎回先着100名

**要申込** このマークの講座・講習会は事前の申込が必要です。申込は開催の1ヶ月前から「往復はがき」で受け付けています。

### 私の植物写真展 作品募集のお知らせ

6月27日から開催する「私の植物写真展」に展示する植物写真を、下記のとおり募集しています。  
作品受付：平成15年6月2日(月)～6月23日(月)  
応募規定：4切サイズ(243mm×294mm) 1人2点以内  
応募方法：写真の裏面に次の事項を記入し、富山県中央植物園まで持参または送付してください  
氏名 年齢 住所 電話番号 題名  
植物名 撮影年月日 作品の説明

### 友の会会員募集中!

富山県中央植物園友の会は、中央植物園を中心に植物の観察・学習などを行い、植物についての知識を深めるとともに、植物園の諸活動に協力することを目的とした会です。

会員の特典 会員証を示しサインするだけで入園できます。会報や植物園だよりが送られてきます。多彩な友の会の行事に参加できます。印刷物の購入や喫茶店での割引が受けられます。

会費 会費は年額3,000円です。新規の方は加入月により割引が受けられます。

加入月	年会費	加入月	年会費	加入月	年会費
1～4月	3,000円	7月	2,250円	10月	1,500円
5月	2,750円	8月	2,000円	11月	1,250円
6月	2,500円	9月	1,750円	12月	1,000円

入会方法 植物園の入園窓口で随時入会を受け付けています。会費を添えてお申し出ください。郵便振替を利用する場合は下記の口座あてに会費を払い込みください。

口座番号：00790-2-11221

加入者名：富山県中央植物園友の会

有効期限 ご入会の日から翌年の3月31日まで

問合せ先 富山県中央植物園友の会事務局

担当 高橋 TEL. 076-466-4187

### 富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)  
11月～1月は9:00～16:30(入園は16:00まで)  
休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)  
入園料 団体料金(20名以上)  
大人(高校生以上) 600円 480円  
小人(小・中学生) 300円 240円  
土・日・祝日は児童・生徒無料